

被災地を訪れて



茨城県水戸駅にて

3月27日～4月1日、夫婦で東北関東に入った。
秋田と茨城には太田東西薬局を開業する前から、私の漢方を続けてくださっているお客様がいる。

3月11日の地震から数日後に電話がつながり、皆さんの安否は確認できたが電話での第一声は、生気のない、とても暗い声だった。

「長崎の太田東西薬局です！ ご無事ですか～！」
その後、電話の向こうの声が変わった。
長崎からの電話をととても喜んでくださった。

そして決心した。
今こそ動く時だ！と。
「安心」を届けに出向く時だ！と。

初日、まずは東京練馬の義父母宅を慰問。
大きな被害はなかったものの、震度5強
の地震～放射能汚染～電力・食糧不足で
東京は緊張の毎日。
明け方、余震で目が覚める。
震度2～3はまだ頻繁にある。
地震のおかげか義父母の夫婦仲はバッチリ！



義父母宅に別れを告げ、いよいよ秋田へ。
仙台空港が閉鎖されているため秋田行の
便は満席。観光旅行らしき人たちはゼロ。
秋田から岩手宮城に向かうボランティアの
若者らを見て、おじさんの私に勇気が出る。
当日の秋田の天候は雪。余震は毎日との
ことで、さすがに出発前は不安だった。



無事に秋田に到着。
人生45年にして初の東北入り。
長崎とは「15℃」最高気温が違った。
しかし「冷え対策」は太田東西の十八番。
靴下重ね履き、腹巻、貼るカイロ、万全の装備！
道中、おかげで風邪は引かなかった。



気持ち不安げな顔...

秋田でマーヤを流布してくださっている先生の
ご自宅に伺い、息子さんとツーショット。
今春、高校受験を見事に突破した好青年だった。
金八先生+ごくせんヤンクミになりきり
「頑張ってるんだ！」と固く握手をして別れる。



イケメンにつきお顔はヒミツ

東北の日の入りは早い。17時でもう薄暗い。
持参した非常食を夕食にする予定だったが
「秋田のためにお金を落としていってください」と
いう先生の声に甘んじて、宿の近くの居酒屋に行く。
なんとそこには、飛行機で隣同士だった男性2名が！
地震にビビっていたって仕方がない。この偶然の再会に
乾杯～！と、盛り上がった秋田の夜だった。



オジメンはお顔堂々OK

翌早朝、奥羽山脈のふもと、横手市に向かう。
岩手県との県境、日本屈指の豪雪地帯。
雪から雨に変わっていた秋田市内の風景が
横手に近づくにつれ、どんどん雪景色に！
童心で車窓の景色に見入る。



横手駅に到着。

右は駅前でのショット。

私の身長 180 cmをはるかに超す積雪に驚愕！
駅に出迎えに来てくださったSさん曰く
「もっとひどかったんですよ。5 mは積もって
いたと思います。とにかく今年は例年のない
大雪でまいりました」
長崎では3 cmで交通機関がマヒするのに…。



そんな豪雪の横手に太田東西のお客様がいる。
皆さんとはもう15年近いお付き合い。
すべては「口コミ」のご縁。
車で出迎えに来てくださったSさんはじめ
皆さんとは電話だけの、「声だけの」漢方相談。
声だけで太田東西を信じて続けてくださる。
そして今、豪雪、地震で大変な思いをされている。
横手慰問はこれまでの「恩返し」だ。



Sさん宅にお集まりいただく。

皆さんとは初対面。「みんな若い！」が第一印象。
80才とは思えないくらい足腰もしっかりされていて
言語も明瞭。お肌もツヤツヤ。

「漢方を続けていてよかったです。こうして無事に
過ごせるのも漢方で足腰が元気になったからです」
そう言われた時には、涙が出そうになった…。

「自分のおかげ」なんてうぬぼれてはいない。
ただただ元気でいらっしやっただけが嬉しかっただけだ。



東北の人は「おしん」のように、我慢強い。

いや、我慢強くなければ、生きていけないのかもしれない。

お客様の一人Yさんは、20年前、50代でご主人を交通事故で亡くされていた。
不平不満、欲まみれの日本人が、東北の人に学ぶことはとても多い。

2時間の談笑はあっという間だった。

75才のSさんは、気力体力年齢は25才だ！

機敏な動作で送迎してくださり、なんとメルアド交換まで。

老けない人は、何事にも前向きだ。

「ケータイ、パソコン、インターネット、そんなもの生活に必要ない！」

今の時代を否定する、時代に逆行する頑固人間とは正反対だ。

今を感じる、今に合わせる、先を読む、チャレンジする生き方。

そうした「変化できる人」は身体も心も若い。

若者とのコミュニケーションも、うまい。

自分から年下に合わせる、時代に合わせる「謙虚さ」を持っている。

そんなSさんから帰路、ケータイにメールが入った。

今日は本当にありがとうございました。私も妹も大の「花好き」で、それぞれたくさんの花を育てていました。妹が亡くなる前に「花になって逢いに来るから！」と約束しました。自宅のハイビスカス、2ヶ月ぶりに今日偶然に3輪も咲いたのは、太田先生にも逢いに来たのでは...と思います。今頃気づいて胸がいっぱいです。先生、ありがとうございました。

仙台市に住む妹さんは末期の乳がんだった。その漢方相談を数年前に引き受けたものの残念ながら帰らぬ人となった。

Sさんの居間に入った瞬間、真紅のハイビスカスが目に入っていた。

「きれいなハイビスカスですね！」と

Sさんにお話ししたものの、北国の秋田で南国のハイビスカスとは珍しいな~という印象だけだった。



Sさんからの写メール

Sさんからいただいたメールに胸が熱くなり長旅の疲れは一気に吹っ飛んだ。

翌朝、神田のホテル。地震で目が覚めた。
東北で地震はなかったものの東京ではこれで3回目の経験。
余震が続く地域では「地震酔い」で悩まされているという。
風なのか、貧乏ゆすりなのか、地震で揺れているのかわからない。
特に夜は「揺れ」を気にし過ぎて、眠れない人が多いと聞いた。

ホテルを出て、いざ茨城（水戸駅）に出発。
茨城は太平洋側ということもあって、地震の影響が大きい。東京から水戸までは常磐線で1時余りで
行けるところ、JRは完全不通。
手段は高速バスのみ。
「のみ」だから、長蛇の列。
写真の5番が乗り場ではなく、はるか先の3番。
1時間待ちと言われ、覚悟を決めていたら、補助席
2つをラッキーにもゲット！
往復6時間のバスの旅は始まった。



それにしても車内は暗かった…。節電で電気も暗く
お客さんの表情も、背中も、こころも暗かった。
笑ったりおしゃべりしている人はいなかった。



今年完成のスカイツリーが右手に見えた。
地震の影響はなかったようだが、何かその姿に
「虚しさ」を覚えた。
ほんとうに今、必要なものなのか？
人間の虚栄心・虚栄物は、自然の前には無力。
今回の震災で多くの日本人が悟ったはずだ。
現代日本の「バベルの塔」にしか見えなかった。



水戸駅に到着。
ここは福島原発からおよそ120kmの地点。
一応、マスクを装着。



しかし、被ばくの不安を忘れるくらい、驚きの光景を目の当たりする。



水戸駅周辺の被害。駅の閉鎖がうなずけた。
駅周辺はいたるところ工事中で、すごい騒音だった。
その場所にもう20年のお付き合いになるTさん87才が待っていてくれた。

Tさんの自宅も塀が倒壊するなど被害があった。水、ガス、電気すべて数日間止まり、車中で寝泊まりしたそうだ。
しかしTさんはお元気だった！ 12年前に逢った時と変わらない容姿。

Tさんが語ってくれた。
「健康の秘訣。最後は『気分づくり』ですよ！という太田先生のアドバイスが今回の件でよくわかりました。私は漢方を続けていたおかげか食事もできるしまあまあ眠れています。でもこの震災以降、眠れず食べれず、気落ちしている知り合いも多いです。ほんとうに助かりました」

今回茨城に入った目的は、その漢方（マーヤ）を届けるためでもあった。
震災で茨城への物流はストップしていたから。
Tさん親子3人の漢方はすでに切れていた。

ならば自分が配達しよう！
直接、手渡しでお届けしよう！
「安心の気分づくり」も兼ねて!!

水戸駅で唯一食事ができるホテルで会食した後ロビーで記念撮影。
Tさん親子はとても仲が良い。

ピンチの時こそ、「家族力」の真価が問われる。
Tさん家族から改めて実感させてもらった。



被災地めぐり最終日は、長男のアパート。
地震当日は運よく春休みで長崎に帰省していた。
八王子市内も震度5で結構揺れたようだが、息子の部屋は
被害なし。しかし近くのスーパーは驚くような暗さだった。



震災2週間後も、品不足。特にミネラルウォーター、乳製品、納豆は商品棚からすべて消えていた...

元気になって帰ろうと母校の東京薬科大学を訪ねる。
25年ぶりの「漢研」(漢方研究会)、
妻との出会いの場、部室の前でパチリ。
大学の学生はみんな明るかった。
地震、食糧不足、放射能汚染、心配すれば切りがない。
今を楽しんでいる学生の姿は、実に微笑ましかった。



「被災されたお客様を励ましに東北関東に入ります」

そうアナウンスして1週間仕事を休んだ。
しかし「励ます」どころか、逆に私たち夫婦が「励まされた」。

みなさん、過酷な環境の中、一生懸命に生きていた。
自分は数日後には長崎に帰る。
しかし東北関東のみなさんは、これからもそこで生活を続けるのだ。
次の大地震、津波、被ばくの不安を抱えて。
そんな中、私たち夫婦を「笑顔で」もてなして下さった。
ほんとうに頭が下がる思いだ。

「先のことを案じるよりも、今を精一杯生きる」

今回の旅で東北関東のお客様から学ばせていただいたことであり
これを長崎のお客様へのお土産としたい。

私は聖人ではない。だから正直に言う。
「今回の地震が九州でなくてよかった...」と思った。
それが多くの九州人の本音だろう。

不謹慎だが、「そう思っている」と思う。
みんな、自分がかわいいのだから。
ただ問題は、そう思った後の「行動」だ。

被災された人たちに「思いやり」をもてるかどうか。
力になりたい！と思えるかどうか。
親を亡くす、子供を亡くすという死別の悲哀。
家、財産、仕事、すべてを失った喪失感。
そうした被災者の気持ちを想像することができるかどうか。
「相手の立場になって考える」ことができるかどうか。

震災後、テレビ番組がつまらないということでレンタルビデオ店やパチンコ店
が繁盛したと聞いた。電気を節約する東日本、電気を浪費する西日本。
いろいろな生き方があっていいとは思う。
でも、人として、最低限の「礼節」は持ちたい。

今、九州人がすべき思いやり・行動とは、毎日の生活が「当たり前」ではなく
「有り難い」と自覚して、感謝して過ごすことだと思う。
「いただきます」「ごちそうさまでした」、もっと意識しよう。
「ありがとう」「ごめんなさい」、もっと家族に素直に言おう。
それが震災で亡くなった方々への供養になると信じる。

こらあ～～！！

「思いやり」も「行動」もない

そんな「なまけ者」は

いねがあ～～

「自分さえよければ人間」は

いねがあ～～～



秋田駅にて（撮影時、近くに女学生がいて恥ずかしかった～）